

「大学図書館のお宝お見せします」

平成 23 年 11 月 5 日(土)、埼玉県図書館協会主催の「図書館と県民のつどい埼玉 2011」が、これまでのさいたま市から桶川市民ホール・さいたま文学館へ会場を移して開催され SALA 加盟館より次の 9 機関が参加した。

本事業は、埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)の事業として位置付けられている。

●跡見学園女子大学

「Girl! Girly!! Girlish!!!」

本学は「女子」大学なので、社会の中で「女子」「女性」がどのように取り上げられているのか、非常に関心がある。「ガーリッシュ文学」という文学上の新カテゴリーを知り、「少女」文学を新たな視点で捉えなおしていることに興味を持ったことが発端で、本学所蔵の資料を5つのカテゴリー(「少女」の世界観のモデルを5つに分類して)に分けてそこを切り口にして展示を構成した。

加えて、ファッション雑誌で少女＝「ガール」がどのように取り扱われているか、具体的な雑誌に則して検討、展示した。

●国立女性教育会館

「アイデア実用化の達人・九重年支子氏資料」

手織りの一種「九重織」の創始者であり、女性発明家の草分けとして婦人発明家協会の創設に関わり、国内外で広く活躍した九重年支子(ここのえとしこ・1904-2002)の資料を展示した。織物作品としてケープ、帯締め、ネクタイ。日本で特許をとった卓上織機、カード式織機など機器類、その実用新案登録証、外国で取得した特許証書、フランスの雑誌に掲載された記事とともに人物概略を紹介した。戦前・戦後から平成まで、起業家、発明家として、母の願いであった女性の自活を現在までにつないだその功績は、多くの来場者の共感を得て、好評であった。

●芝浦工業大学

「本が伝える、工学の歴史」

本学図書館所蔵の貴重書である初版資料『流体論』(マリョット著 1686 年)、『電気の物理学的研究』(マラー著 1782 年)と『茶室起こし絵図』を出展した。起こし絵図とは、建築物の説明のために江戸時代に作られた立体的な設計図のことで、会場でも多くの人の目を引いていた。

また、本学図書館広報誌『OH! MY LIB CAFÉ 図書館の防災～被害と取り組み～』も展示した。東日本震災後の図書館の様子や3キャンパスの建物の構造について特集したもので、図書館での防災対策に関心を示している人が多く、情報交換の場となった。

●城西大学

「日本近代漫画の先駆者 ー北沢楽天ー」

埼玉県大宮宿(現さいたま市)出身の北沢楽天は、明治 32 年に福沢諭吉が創始した新聞「時事新報」に絵画部員として入社。明治 35 年には同紙の日曜特集欄「時事漫画」を手掛け、当時「ボンチ絵」「おどけ絵」と呼ばれていたものが「漫画」と呼ばれるようになった。明治から昭和にわたり、庶民の生活や世相をユーモラスに表現した数々の作品は、現代にも通じる。今回の展示では、時事新報附録「日曜畫報」の大正 11,12 年発行「婦人参政権」(第 94 号)ほかをご覧いただいた。

●女子栄養大学

「ガクシヨク シャシヨク《バランスメニュー》」

本学建学の精神「食による人々の健康の維持・改善」に沿って、「ガクシヨク シャシヨク《バランスメニュー》」と題し、学生食堂や社員食堂に関連する資料を展示した。主な展示資料は、学食・社食の歴史紹介パネルやメニューブック、論文、及び本学出版部発行の「食品成分表」などである。また、展示資料一覧および「大学食堂のあり方」(本学創設者 香川綾寄稿)リーフレットと、バランスの良い食事法を紹介した「健康さわやかカード」を配布した。来場者の健康的な食事に対する関心の高さが感じられた。

●聖学院大学

「くまのぬいぐるみと子どもの関係ティディベアを中心に」

大人から子どもまで愛されるくまのぬいぐるみ。それは「クマ」本来が持つ人間的なしぐさと親子の深い愛情が人を魅了するから…。そんな研究成果を元に、クマを主人公とする絵本や児童書、くまのぬいぐるみやティディベアなどを展示。教員によるティディベアの魅力についての短い紹介映像も流れ、ぬいぐるみの愛らしさや懐かしい絵本に多くの方が足を止めた。

また合わせて、「新・図書館広報」と題して、Twitter やブクログといった Web からの情報発信について、本学の取り組みを紹介した。

●大東文化大学

「見たことある!アジアの言語」

今回は、国際関係学部のアジア地域に特化した教育の中から、中国語、コリア語(韓国)、タイ語、インドネシア語、ベトナム語、ヒンディー語(インド)、ウルドゥー語(パキスタン)、ペルシア語(イラン)、アラビア語(エジプト)の9言語の文字を、図書資料、学部作成のテキスト及び担当教員自筆による各地域のあいさつなどの展示により紹介した。

また、パキスタン・イスラム共和国より勲章を受賞された教授とアラビア書道の国内第一人者である教授の2名を関係図書資料などの展示により紹介した。

●東洋大学

「貴重資料パネル展～『つれづれ草』『をこぜ』他」

貴重資料パネルとH24年度に創立125周年を迎えることから妖怪博士としても知られた学祖井上円了にちなんだ「化物婚礼絵巻」(複写)。H23年度に開設50周年を迎えた川越キャンパス(理工系)の学問領域にちなんだレオナルド・ダ・ヴィンチが残した手稿のうち「パリ手稿」「鳥の飛翔に関する手稿」(ファクシミリ版)を展示した。

来場者に貴重資料の一部に触れていただくことができ、また、本学川越図書館の地域開放へのご利用の紹介と貴重資料のブックカバー・しおりも配布し好評であった。

●文教大学

「墓の中からべらぼうめ!!俺の蔵書を見ていきな

—清明文庫—

勝海舟が晩年を過ごした別邸「洗足軒」は、品川区の文教大学旗の台キャンパスに程近い、大田区南千束・洗足池畔にあった。遺言で葬られた墓所の裏手には、海舟の蔵書を管理するため日蓮宗系の財団法人「清明会」が建てた図書館兼講堂「旧清明文庫」(現在の名称は鳳凰閣。国登録有形文化財)がある。縁あって本学に託された清明文庫旧蔵図書は、海舟の旧蔵書を含め約850点を数える。海舟の蔵書印や自筆とみられる朱書がある古籍などを展示した。



つどい全体のポスター(左)と参加者

詳細は埼玉県図書館協会の報告書をご参照ください。
(<http://sailib.com/tudoi/>)